

# 日本地衣学会

# No.62

# ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

|    |                              |
|----|------------------------------|
| 目次 | 会員通信.....219                 |
|    | 日本画家下村観山の描いた地衣類／安斉唯夫.....219 |

## 会員通信 From Members

### 日本画家 下村観山の描いた地衣類

Lichens drawn by a modern Japanese-style painter, Kanzan Shimomura

安斉唯夫：ゼルグプランニング

地衣類は一年中観察できる、とはいうものの寒い冬はなかなか野外に足が向かないものである。暖房の効いた部屋で図鑑でも開こうかと思いついても、どうも図鑑というのは堅苦しく、余計肩が凝りそうでもある。そうしたとき、画家が思うがままに描いた地衣類をながめ、彼はなんの地衣類を見たのだろうか、どう見えたのだろうか、と思いをめぐらすのもおもしろいものである。

洋画の世界には地衣類が少ないように見受けられるが、幸いにして日本画には古くから多くの地衣類が描かれている。そうした中でも下村観山ほど様々な地衣類を描いた画家は珍しい。作品をながめながら、下村観山の描いた地衣類の世界をご紹介します。

#### 狩野派の流れをくむ下村観山

下村観山は明治6年（1873）和歌山市に生まれ、昭和5年（1930）に没した日本画家である。9歳の頃より狩野芳崖に師事した彼は狩野派の技法を厳しく仕込まれたという。16歳にして東京美術学校（東京芸術大

学の前身）の第一回生として入学し、卒業とともに助教に就任した。しかし、明治31年、校長の席を追われた岡倉天心らとともに職を辞し、日本美術院の創立に加わる。39年には天心や大観と共に茨城県五浦に移り住み、五浦派として活躍した。

狩野派の流れをくむ観山は、旧来の作風をみせる作品を数多く残しており、古色蒼然とした地衣類の絵（略して「地衣絵」）も沢山描いている。古くから描かれているウメノキゴケを思わせる地衣絵は、江戸時代の画壇を



図1. 狩野春雪「源義経・楠木正成図屏風」に描かれた典型的な地衣類の紋様（白縁苔地衣絵）。



図 2. 下村観山「大原御幸 1 巻」明治 41 年（以下、絵の作者名は特に明記しない限り下村観山）。

[左上] 「大原御幸」の一部。

[左] 手前の樹幹上に描かれた伝統的な白縁苔地衣絵。

[上] 奥の樹幹に描かれた蘚苔類と判別のつきかねる地衣絵（青灰色の部分）。



図 3. 「静清」明治 44 年。

[左] 「静清」の一部。 [右] 樹幹基部に描かれた伝統的な白縁苔地衣絵。

凌駕した狩野派によって極端に紋様化され、スタンプを押すが如くに大量に描きこまれるようになってしまった。観山の作品を紹介する前に、狩野派が好んで描いた典型的な地衣紋様を図 1（狩野春雪／源義経・楠木正成図屏風）に示す。このような白く縁取られた伝統的な地

衣紋様を私はこれまで「シロブチゴケ」と呼んでいたが、本来の分類上の地衣類と紛らわしいため今日から和名を「シロブチゴケチイェ 白縁苔地衣絵」としよう。「白縁苔地衣絵」は類円形で周囲が白線や白点で縁取られていることが特徴である。





図4. 「木の中の秋」明治40年。

〔左上〕「木の中の秋」の一部。

〔左〕中央の樹幹上に描かれたウメノキゴケと思われる地衣絵。

〔上〕右の樹幹上に描かれた痂状地衣類を思わせる垂込地衣絵。



図5. 「弱法師」大正4年。

〔左〕「弱法師」の一部。〔右〕太い枝の表面に描かれたトゲウメノキゴケを思わせる地衣絵。

観山の描いた伝統的な「白縁苔地衣絵」の作品は「大原御幸」（1908 明治41年／図2）や「静清」（1911 明治44年／図3）に見ることができる。

## 伝統的な地衣紋様からの脱却

彼の代表作である「木の間の秋」（1907 明治 40 年）は、地衣類が描かれた絵画として最も素晴らしい作品といえる（図 4 左上）。里山を思わせる秋のすがすがしい林を描いたこの作品には、檜の樹皮にウメノキゴケのような丸い裂片をもつ葉状地衣類が鮮やかに描かれている（図 4 左）。

狩野芳崖の弟子として育った観山であるが、旧来の地衣紋様から抜け出し、「木の間の秋」のような写実的な地衣絵を描くに至った。古い地衣紋様から脱却するには実際の地衣類を見つめ直す作業が必要であったろうし、またそこに美を見いだすことも必要だったに違いない。

ここで、地衣絵をもう 1 種紹介しよう。ウメノキゴケとは別種と思われる葉状の地衣絵を「弱法師」（1915 大正 4 年）に見ることができる。図 5 の葉状地衣類は全体が不規則に成長し、縁も白くなく灰色がか

っている。中央部の濃緑色部分は密集した裂芽のようでトゲウメノキゴケのようにも思えるのである。観山は、どこで、何を見て、このような地衣絵を描いたのだろうか。

（つづく）

### 図の出典

- 図 1. 狩野春雪「源義経・楠木正成図屏風」：板橋区立美術館展示品；撮影許可確認の上安齋がデジタルカメラにより撮影。
- 図 2. 下村観山／大原御幸第四段：平成 11 年度国立博物館・美術館巡回展「風景表現の展開—絵画にみる100年」図録；東京国立博物館（編）、静岡県立美術館（発行）、2000 年 2 月 26 日
- 図 3. 下村観山／静清（双対右）：観山画集（二分冊）；大日本絵画（発行）、1981 年
- 図 4. 下村観山／木の間の秋：二〇〇五年日本国際博覧会記念特別展「自然をめぐる千年の旅—山水から風景へ—」図録；愛知県美術館（編）、自然をめぐる千年の旅実行委員会（発行）、2005 年
- 図 5. 下村観山／弱法師：観山画集（二分冊）；大日本絵画（発行）、1981 年

## ◆原稿募集

本誌は、会員からの原稿を随時募集しています。地衣類にまつわるエピソード、思い出、あるいは地衣類に関する写真とタイトル、簡単な説明文だけでも受け付けます。昨年同様、原田が本誌編集のとりまとめを行いますので、電子メールにて次のアドレス宛に投稿御願います：

harada@chiba-muse.or.jp （原田浩）

## ●複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、(社)日本複写権センターと包括複写許諾契約を締結されている企業の従業員以外は、図書館も著作権者から複写権等の行使の委託を受けている次の団体からの許諾を受けてください。著作物の転載・翻訳のような複写以外の許諾は、直接本会へご連絡ください。

〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル 学術著作権協会。

Tel: 03-3475-5618. Fax: 03-3475-5619. E-mail: naka-atsu@muj.biglobe.ne.jp

アメリカ合衆国における複写については、次に連絡してください。

Copyright Clearance Center, Inc. 222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA.  
Phone: (978) 750-8400. Fax: (978) 750-4744

## ●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission from the following organization which has been delegated for copyright for clearance by the Japanese Society for Lichenology.

Except in the U.S.A.: Japan Academic Association for Copyright Clearance (JAACC).

6-41 Akasaka 9-chome, Minato-ku, Tokyo 107-0052 Japan. Tel: 81-3-3475-5618.

Fax: 81-3-3475-5619. E-mail: naka-atsu@muj.biglobe.ne.jp

In the U.S.A.: Copyright Clearance Center, Inc. 222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA.

Phone: (978) 750-8400. Fax: (978) 750-4744.

## 日本地衣学会ニュースレター 62号

発行日：2006年 2月 13日

編集：原田浩・岡本達哉・木下靖浩・棚橋孝雄  
発行者・発行所：日本地衣学会

〒010-0195 秋田市下新城の中野

秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科内